古材とは、地中や水中に何十年、何百年と埋もれて化石化した木材や、家屋で長年利用されてきた木材などのこと。タイやインドネシアから運んでくるカリンやチークの古材は、化石化して硬く丈夫になる。また、傷や割れが二つと同じものの、ない個性を生み、表情豊かで味がある。そのため、店舗や住宅、オフィスの内装などに活用されている。

古材銀行（http://kozai-bank.com/）は、日本でも古材需要が高まることを見越して九五年に立ち上げた。銀行からお金を引き出すように、求めに応じて古材を提供できるシステムを目指して「古材銀行」と名付けた。当初は苦戦が続いたが、十数年前、東京ビッグサイトで開かれた「住宅リフォームフェア」でブースを出したところ引き合いが殺到。現在では日本最大の古材貯木量を誇り、日本各地に代理店ネットワークを広げている。

さらに二〇〇五年には、「古民家解体システム【解体革命】」を立ち上げた。古材銀行事業と古民家の解体とを結び付けるもので、古材を引き取る分、解体費用が安くなる。また、従来は廃材として処分されるだけだった木材が「古材」として甦るので、環境にもやさしい。

同社の売上高はここ数年、年商三十億円前後を維持しているが、古材銀行は好業績の一つの柱となっている。

PROFILE

渋谷　守浩（しぶたに・もりひろ）**氏**

1966（昭和41）年、奈良県出身。修成建設専門学校卒業後、86年、㈱住都修繕に入社。88年、同社を退職して渋谷工業㈱（現㈱渋谷）に入社。インテリア、内装などのほか企画・営業畑を歩み、90年、専務に就任し、95年、古材輸入・販売を手がける「古材銀行」を立ち上げたほか、2006年、無印良品の家ネットワーク・パートナー加盟、07年、ソフトバンクモバイル一次代理店業務開始など事業を拡大。08年、3代目社長に就任。

――「古材銀行」を始めたきっかけは、どのようなものだったのですか。

渋谷　私の尊敬する方に、奈良県香芝（かしば）市で身体障害者療護施設「どんぐり」や学校法人ハルナ学園を主宰されている藤田寿美子先生がいます。先生は私より二回り以上年上ですが、二十代の女性とデートするよりもドキドキさせられる知的な魅力を持っておられます。今でも多くのことを教わる、私の師匠のような方で、当社では先生の活動を支援する社会事業も行っています。

その先生とのご縁で、タイのチェンマイで里親のボランティア活動を始めたとき、樹齢何百年もの地元の古材に出会いました。私はすっかり古材の魅力に取りつかれてしまい、「何か新しいことができそうだ」と直感したのです。現在では、東南アジアの古材の扱いは世界有数の規模となり、さらに世界各国の古材を扱っています。

古材を活用した店舗の例